

## 株式会社 福井銀行

本支店91店舗・出張所7店舗／  
合計98店舗（2024年3月31日現在）



福井銀行 本店ビル



業務支援グループ 業務支援チーム 事務ゼロ推進課の伊井隆詞さん（右）と大綱一恵さん。

# 公金業務のデジタル化により 「処理済み通知書の現物を返却しない運用」を 日本で初めて実現

## 運用フローに「fi-8150」と「DynaEye 11」を組み込み自治体の多様なニーズに対応

株式会社福井銀行（福井県福井市）では、福井県内の17自治体の協力を得て、日本の金融機関で初めて「納付書や領収済通知書の現物を自治体に返却しない公金業務」を実現しました。これは帳票のイメージデータを自治体と共有するクラウドベースのサービスを活用したもので、サービスの一部フローには「RICOH fi Series」（以下、fiシリーズ）とAI-OCRソフトウェア「DynaEye」が導入されています。福井市内にある福井銀行事務センターを訪ね、サービスの全体像と「fiシリーズ」「DynaEye」が果たす役割を詳しくうかがいました。

**課題** 新サービスの運用開始に伴い、一部の自治体から、より高解像度でスキャンしたイメージデータの納品やデータ集計作業の支援といった追加要望を受け、解決法を探していた。

**解決法** 高解像度スキャンに「fi-8150」、集計のためのOCR処理に「DynaEye 11」を活用したフローを構築し、新サービスの運用に追加。  
**効果** 解像度と集計表の課題が解決したことで、該当自治体を含めて福井県内17自治体のサービス利用が実現（2025年2月時点）。帳票輸送コストの削減や自治体の業務効率化も果たされている。

## イメージデータを共有するサービスの導入で公金業務のデジタル化を実現、自治体と銀行の事務作業を効率化

——はじめに業務支援グループ 業務支援チーム 事務ゼロ推進課 為替公金口振デジタルシフトチーフの永田弥生さんにうかがいます。福井銀行では日本の金融機関で初めて、「納付書や領収済通知書の現物を自治体に返却しない公金業務」を実現されました。これは公共料金の納付書や税金の領収済通知書のイメージデータを文書管理システムに保存し、自治体がいつでも検索・閲覧できるようにする画期的なサービス（以降、イメージ照会サービスと表記）を活用したものです。

**永田さん** そうです。従来は紙でお預かりした納付書や領収済通知書を契約終了後に紙のまま自治体様に返却していましたが、当行で受け付ける公金の支払は一日平均1,000件以上、年間では80万件以上になるため、帳票の仕分けや発送などに相応のコストがかかっていました。また、自治体様でも返送された帳票を厳重に保管するためのスペースが必要ですから、一定のコストを要していました。

そこで当行では「お預かりした帳票の原本を自治体様に返却しない」と、「自治体様と当行の双方にメリットを生じさせる」ことを大方針としてデジタル化を推進し、2024年4月にイメージ照会サービスの運用を開始しました。福井県には自治体が県を含めて18あり、現在はそのうち17自治体がサービスを利用してくださっています。

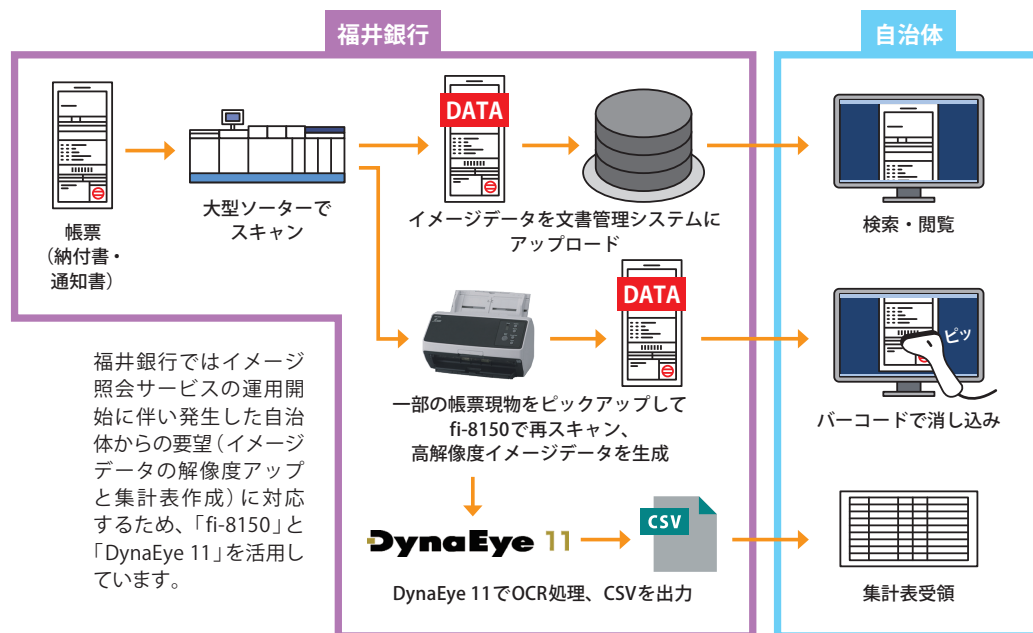


為替公金口振デジタルシフトチーフの永田弥生さん。

—— 帳票のイメージデータ化には、帳票を素早く仕分けるために銀行が備えている大型のソーターをお使いとうかがいました。その一方で、フローの一部に「fi-8150」と「DynaEye 11」も活用しておられるとか。どのような役割を果たしているのでしょうか。

**永田さん** 「fi-8150」は高解像度のイメージデータを生成するために活用しています。自治体様が料金系の帳票に印刷されたバーコードを読み取って消し込み(売掛金を入金と照合して消す作業)をなさる際、イメージ照会サービスの画面に表示したバーコードをバーコードリーダーが読み取れないケースが発生しました。そこで一部の自治体様のオーダーを受け、該当する帳票を「fi-8150」で再スキャンして高解像度のイメージデータをお渡ししています。

また、別の自治体様からは料金の詳細な集計表作成のオーダーを受けました。そこで上記同様に帳票を「fi-8150」で再スキャンし、「DynaEye 11」でテキストを読み取って集計表を作っています。



## 「fi-8150」で再スキャンして「DynaEye 11」でOCR処理。 自治体のオーダーに応じてサービスを補完

—— ここからは業務支援グループ 業務支援チーム 事務ゼロ推進課の伊井隆詞さんと大綱一恵さんに、「fi-8150」と「DynaEye 11」の運用フローをうかがいます。「fi-8150」でのスキャンは、ソーターでスキャンした帳票のイメージデータをイメージ照会サービスに登録したあとで行うのでしょうか。

**伊井さん** はい、自治体別・種類別にソートされた中から該当する帳票をピックアップし、「fi-8150」で再スキャンします。ソーターでのスキャン時、帳票の裏面にトレース用の通番をQRコードの形式で印刷しているため、「fi-8150」で両面を同時にスキャンしています。

—— 集計表作成の場合は「fi-8150」での再スキャン後に「DynaEye 11」でOCR処理を行うのですね。読み取り精度はいかがでしょう。

**伊井さん** 現場からは手書き文字も含めて読み取り精度がかなり高く、修正の必要はほとんどないと聞いています。

—— 読み取り箇所を指定する書式定義に苦労されたことはありますか。また、現在までにいくつかの定義を登録しましたか。

**大綱さん** 「DynaEye 11」の書式定義は、一度慣れるとすごく簡単にできます。今では新しい書式の帳票が来ても、特に苦労することなく定義できます。これまでに約15の書式定義を登録しています。

—— 解像度が求められるものと、集計表のために「DynaEye 11」で読み取るもの、それぞれ何自治体分あるのでしょうか。

—— サービス導入に付随して発生した自治体の要望に応えるために「fi-8150」と「DynaEye 11」をご活用くださっているのですね。サービスの導入後、どのようなメリットがありましたか。

**永田さん** 当行では帳票を仕分けるコストや運送コストがなくなり、現場の省人化も実現できました。自治体様でも消し込みの作業効率向上や帳票保管コストの削減などのメリットが生じています。



帳票の裏面にはQRコードの形式で通番が印刷されているため、両面同時スキャンが可能な「fi-8150」はうってつけでした。



「DynaEye 11」では直感的な操作でスムーズに書式定義を作成し登録できます。

**伊井さん** 高解像度が5自治体、集計表作成が2自治体です。「fi-8150」と「DynaEye 11」を活用したサービス補完により、それらの自治体様にもイメージ照会サービスを利用いただくことができました。

